



未来を担う子どもたちに故郷の思い出を。

# 第29回 みよしまつり

みよしまつりがあるから同窓会のように里帰りする——。大好きな町の大好きな祭りで地域に触れたい。そこには子どもの頃に心に刻まれた故郷、地域の想いの継承がありました。

**忘** れられない大切な祭り——。夏の終わりの風物詩として毎年9月の第一土曜日に開催される「みよしまつり」。今年も9月7日(土)に行われ、4万6千人が来場。2千発の花火が夜空を彩り、幕を閉じました。

みよしまつりの趣旨は、地域のコミュニティづくりや地域活性化を図り、将来を担う子どもたちに「ふるさと三芳町」を肌で感じ、まちでの思い出を刻むこと。一方、晴れの舞台でもあり、お囃子や阿波踊り、組太鼓やキッズダンスなど日ごろ練習してきた成果を子どもたちが来場者の前で披露し、御輿など先導する地域住民の皆さん。祭りを通じて住民が一丸となり会場を盛り上げます。

また来場者には親子やこの日のために里帰りしてきた人が多数います。「小さなころに楽しんだみよしまつりを、自分の子にも肌で感じてほしいから連れてきました」「みよしまつりの日は必ず里帰りします。いろんな人に会えるから同窓会みたいですね」との声がありました。

親子ですつと忘れられない思い出がたくさん生まれたこの日。大人から子どもまで地域が一つになる、故郷三芳町への愛を、地域の絆を感じる事ができる素敵なまつり。来場者の皆さんにとって、忘れられない大切な思い出として心に残ることでしよう。

